

北見工業大学事務DXミッション

－事務業務の効率化とスマートキャンパスの構築－

○2024年4月、事務業務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するべく「DX連携チーム」を発足した。情報処理センターと事務部との横断的な協働体制を築き、デジタル技術を核とした業務改革を推進している。さらに、その取り組みを一層加速すべく、全学的な視座に基づく事務DXミッションを策定した。

【事務DXミッション策定の目的】 本学における事務業務DX戦略「考える・やめる・減らす・変える」の視点から業務を見直し、デジタル技術を活用して業務改革や組織文化の改革を目指し、教職員が本来業務に集中できる環境を整備する。



事務DXの3つのミッション

業務のスマート化と業務プロセスの再構築（BPR）

✓ 会議におけるペーパーレス化

会議資料の電子化により、意思決定プロセスの迅速化、情報共有のリアルタイム性確保、物理的保管スペースの最適化を実現。これにより環境負荷の低減にも寄与。

✓ 各種申請・承認プロセスのオンライン化

教職員・学生の申請手続きをデジタルプラットフォームへ移行することで、申請から承認までのリードタイムを大幅に短縮。業務の透明性とトレーサビリティも向上。

✓ 業務フローの標準化と効率化

業務の棚卸しや、可視化・共有化をすることで、効率的な業務プロセスを探り、同じ品質で遂行できる体制を整備。属人化を防ぎ、業務の継続性と柔軟な人材配置を可能にする働き方を構築。

コミュニケーション基盤の革新と協働環境の深化

✓ リアルタイムコラボレーション環境の構築

Teamsによるチャット、Web会議、共有ドキュメント機能を活用し、部署間連携の障壁を排除。これにより時間と場所を問わない協働が可能。

✓ 非同期コミュニケーションの最適化

通知機能や共有スペースの活用により、情報の伝達漏れを防ぎ、各自の業務ペースに応じた柔軟な情報アクセスと応答を促進。

✓ ナレッジマネジメントの推進

マニュアル、FAQ、業務ノウハウなどの共有ファイル等を一元的に管理し、組織全体の集合知を蓄積。業務継続性の確保や業務標準化に貢献。

人材育成とデータ戦略による知的生産性の向上

✓ DX人材の育成と組織文化の変革

デジタルツール活用の研修プログラムの実施や、生成AIツールの試行を通じて、業務改善に主体的に取り組める人材を育成。

✓ 知の集約による業務革新

データを集約・活用できるよう事務データの管理基盤を構築し、戦略的な意思決定に活かすDX環境を構築。

✓ データガバナンスの強化

デジタル化された情報を一元的に管理し、データの機密性に応じたアクセス権限の設定や、ログ管理等を活用し、不正アクセスや情報漏洩リスクを最小化。これにより災害時における事業継続性（BCP）も確保。

単なる業務のデジタル化にとどまらない、真に価値創出型のトランスメーションを実現

事務DXミッション推進に係るロードマップとフェーズ展開

ロードマップとフェーズ展開

第1フェーズ

事務部業務の効率化

会議資料・配付資料の電子化、各種申請等のデジタル化、DX人材育成を開始。
これにより、既存業務のボトルネックを解消し、デジタル化による即時効果を創出。

第2フェーズ

教員向け業務のデジタル化

申請手続きの見直しとデジタル化、研究データ管理基盤の整備を推進。
これにより、教育・研究活動の基盤を強化し、教員のエンゲージメントを向上。

第3フェーズ

学生・学外連携のデジタル化

学生向け各種申請等のオンライン化、学外機関とのデータ連携強化、クラウドサービスの本格活用促進を図る。
これにより、環境変化に柔軟かつ戦略的に適応し得る基盤を整備。

事務DXがもたらす具体的効果

この事務DXミッションを通じて、業務の効率化と迅速な意思決定を進めます。ペーパーレス化やオンライン申請により、教職員が本来業務に集中できる環境を整え、柔軟な働き方と持続的な成長を実現します。